

各 位

埼玉県蕨市塚越 4 丁目 12 番 17 号  
株式会社 オプトエレクトロニクス  
代表取締役社長 俵 政美  
(コード番号: 6664)  
問合せ先 取締役会長 志村 則彰  
電話番号 048-446-1181 (代表)

平成 20 年 11 月期 通期(連結・個別)業績予想の差異に関するお知らせ

平成 20 年 7 月 8 日に公表いたしました平成 20 年 11 月期通期(連結・個別)業績予想についての差異をお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 11 月期 通期連結業績予想との差異について

(1) 通期連結業績予想の差異(平成 19 年 12 月 1 日～平成 20 年 11 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	11,000	850	700	500
今回修正(B)	9,360	404	192	126
増減額(B-A)	△1,640	△446	△508	△374
増減率(%)	△14.9	△52.4	△72.5	△74.6
ご参考 前期実績 (平成 19 年 11 月期)	9,836	388	217	29

(2) 通期連結業績予想の差異の理由

昨年 9 月における米証券会社の破綻以降の世界的経済の急速な下降による市場停滞の影響を受け、当社グループにおいても取引先、エンドユーザーなどが買い控えに回ったことが響き、連結売上高は 93 億 60 百万円(計画比: 85.1% 昨年同期比 95.2%)となる見込みです。

したがって各セグメントごとの売上高は各国とも第 4 四半期の売上が計画と乖離したことにより大きく変動しました。

日本国内における売上は、32 億円(計画比 81.2% 昨年同期比 79.1%)となる見込みとなり、第 4 四半期については 16 億 20 百万円の計画が 8 億 80 百万円となる見込みです。主な要因は上述しているとおり 9 月以降の急速な経済悪化により、小売業、物流業などの顧客において設備投資費が抑制されたため、主要 OEM 先 3 社においても当該顧客からの受注が減少した結果、当社が OEM 先と進めていた案件が不成立となり、3 社に対しての第 4 四半期の売上が約 6 億円減少につながったことによるものです。あわせてその他販売先も同様の理由で需要低下につながり、売上が減少しております。

米国内売上高は13億80百万円（計画比94.5%昨年同期比88.6%）になる見込みとなり、第4四半期については、4億74百万円の計画が3億94百万円にとどまる見込みです。主な要因は、米国内の経済悪化の影響による販売先の需要減と、米国内で広く顧客対応するための営業体制強化を目的に営業拠点移動を行ったが、移動後における営業体制整備に想定以上に時間がかかったことによるものです。

欧州・その他地域は、昨年同期より大幅に伸びたものの47億79百万円（計画比85.3%昨年同期比112.9%）となる見込みとなり、第4四半期については、売上計画18億70百万円が11億49百万円となる見込みです。主な要因は、上述の日本国内と同様に理由により欧州・その他地域の売上が減少したことによるものです。

営業利益につきましては、コスト低減に努めたものの、グループ全体の売上の大幅減の影響により4億4百万円（計画比47.5%、昨年同期比104.1%）になる見込みです。

経常利益につきましては、売上の大幅減が響き1億92百万円（計画比27.4%昨年同期比88.7%）となる見込みです。純利益につきましては、各個別会社の税金計算の結果見込みに比べ税金支払額が減少したものの売上減の影響を受け、1億26百万円（計画比25.2%昨年同期比327.6%）になる見込みです。

## 2. 平成20年11月期 通期個別業績予想との差異について

### (1) 通期個別業績予想（平成19年12月1日～平成20年11月30日）

（単位：百万円，%）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	6,542	511	214	200
今回修正（B）	6,310	289	23	18
増減額（B－A）	△232	△222	△191	△182
増減率（%）	△3.5	△43.4	△88.8	△90.8
（ご参考） 前期実績（平成19年11月期）	6,606	△186	△441	△449

### (2) 差異の生じた理由

売上高は、9月以降の世界情勢にならって国内需要が急減速し、当社においても例年比較的好調であった第4四半期が影響を受けました。その結果、63億10百万円（計画比96.5%、前年同期比95.5%）となる見込みです。第4四半期の売上は23億58百万円の計画に対して21億26百万円となる見込みです。要因としては、生産拠点移管によって遅れていた欧州への出荷が第4四半期に正常に戻ったものの、国内での売上の大幅減があったことが響いたものです。

利益面では、コスト低減に努めたものの、第4四半期において売上が大幅な計画未達となったことから2億89百万円の営業利益（計画比56.6%、前年同期時赤字より回復）、経常利益は、23百万円（計画比10.7%、前年同期時赤字より回復）、当期純利益は18百万円（計画比：9%、前年同期時赤字より回復）となる見込みです。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき、当社で判断した予測であり、不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上